

(兼題)

「輝く」

竹治ちかし 選

佳句

二万年過去の輝き見せる星
震災が輝き奪い戻らない
赤ちゃんの輝く瞳には負ける
七十路に磨けば光るものもある
辞めてなお輝く背の51

瑞人
のぼる
敬子
利彦
瑞人

人

輝いた女が認痴になる哀し

小豆沢歌子

地

イミテーション輝くことにもう疲れ

岸 桂子

天

最後まで輝きたいと紅をさす

増田のぼる

軸吟

輝いた時代は過ぎてから気付く

竹治ちかし

(兼題)

「馴染み」

岡 あきら 選

佳句

愚痴こぼすコップ馴染みのカウンター 寿美
大好きな馴染んだ服が嵌らない 歌子
来た道を靴は知ってる馴染んでる ゆきこ
居酒屋の馴染みの客と馬が合う 利彦
旧道に残る馴染みの手打ち蕎麦 寿美

人

ハイカラの邪魔をしました出雲弁

伊藤 玲峰

地

顔馴染みただそれだけで終る恋

柳楽たえこ

天

同窓会幼馴染も共に老い

竹治ちかし

軸吟

仲間との尽きないよしみ基に馴染む

岡 あきら

(兼題)

「ハッスル」

伊藤 玲峰 選

佳句

明日へのハッスル妻の酌があり
ハッスルをし過ぎ二度目のフライング
どん底にいてもハッスル失わず
運動会今年も母が来て一位
年甲斐もないハッスルに木から落ち

健柳
瑞人
健柳
瑞人
寿美

人

延長戦気力絞った背負い投げ

錦織ゆきこ

地

ごひいきと共にハッスルするファン

竹治ちかし

天

新しい自分ハッスルして磨く

桐原 洋子

軸吟

ハッスルをするに財布が軽すぎる

伊藤 玲峰

(席題)

「新」

錦織ゆきこ 選

人

颯爽と令和時代へ新社員 岡 あきら
生きていてまた新札に出会えそう 岡 あきら
新芽にも欠く芽伸ばす芽ある運命 竹治ちかし

天

新元号ひびきがきれい好きになる

錦織ゆきこ

軸吟

新元号ひびきがきれい好きになる

錦織ゆきこ